

画像②「松島開島之儀ニ付伺」

出典：『花房義質関係文書 東京都立大学付属図書館所蔵 第2期（明治初期政治史料集成：6）』安岡昭男 監修，岩壁義光，広瀬順皓，堀口修 編修，北京社，[2002] マイクロフィルムリール第20巻 文書番号は406-2 【大阪大学総合図書館所蔵】
原文書は、東京都立大学図書館所蔵

松島開島之儀ニ付伺
我カ徳州ノ北ニ一島アリ松島ト云ハ地勢
ハ南北四五里ニ直リ東西ニ三里ニ止リ西ハ
朝鮮ニ近ク北ハ魯頭滿州ニ接ス云航海
者ノ説ニヨシハ該島ノ南面海ニ向テ漸ク平
坦ニ属シ山頂ノ四分ニ瀑布ノ如キモマリ
又海濱深々ノ小湾ハ以テ船ヲ繫テリハ
シ加フニ巨木全島ニ繁茂シ深緑帯ニ
概若蒼々リ而シテ又頗シ溪獵ノ利ヲ見ル就
中支那人好ム所ノ鮫ノ如キハ其多クテ勝テ
言フ可ラズ已ニ浦潮港立ツ由ノ島人佛人
等其益益々ヲ認メ六編ノ之ニ任自セリト

又其説の所ヲ聞ケル鑛山アリト云ヘリ柳
 魯西亞ノ亞細亞東方ニ志シタルハ世人ノ
 已ニ明知ス所ナリハ浦潮港ノ日ヲ追テ繁
 盛ニ至ルハ指リテ云ヒテ待ツハキナリ果シテ然ラ
 ハ該島ハ我長崎ト清國上海ヨリ浦潮
 港ニ航海ノ線路ニ在リ安衝ノ地ナルヲ以
 テ彼我船舶ノ渡海スル者或ハ風浪ヲ避
 ケテ新水ヲ求ムル亦應ニ歎テカラレハ況ヤ
 其島村ヲ伐リ其澳獵ヲ開カハ本邦ニ多
 大ノ利益ヲ増シ通商ノ便ヲトスルニ足ルハ
 蓋シ方今國事多端際々ハ回リテ事ヲ
 ナスニ後先ノ別アリトモ該島ノ事亦勿レヤ
 ニ可ラズノ事情アリヤ右ニテノ度外ニ付セ

ハ外人、所有ニ歸ト遊ニ悔ト追フ可ク又政
ニ暫ク十全ノ事ヲ為リ、此モ先ツ速カシ我散
圖内ニテハ謹シ、公ニ辭ヲ設ケ、海濱ニ開島
後民、チ下ニ通船ノ便ヲ得セシメハ外人ノ
垂涎ヲ防ナレト所屬タリ明示スル而シテ
其管轄、至縣ニ命セラレハ便宜ノ渡船ヲ既ニ
該島ニ乘往シテ輕易ニ其方法ヲ可相立右ハ
浦潮港ヲ留理事官瀬原高久ノ願ハ
切迫、以テ茅甲越ノ者モ有ラズ先着手概
略者須序書頂添、故殿具陳候條至志、何
方、御決裁ヲ仰干候也

明治十年七月二十日 長崎縣令並島委朝

内務卿古公保利通殿

長川泉

松島開島之儀ニ付伺

我カ隠州ノ北ニ一島アリ松島ト名ツク、地勢ハ南北四五里ニ亘リ東西二三里ニ止リ、西ハ朝鮮ニ近ク北ハ魯領滿州ニ接スト云、航海者ノ説ニヨレハ該島ノ南面海ニ向テ漸ク平坦ニ属シ山頂ノ三四分ニ瀑布ノ如キモアリ、又海浜処々ノ小湾ハ以テ船舶ヲ撃クヘシ、加フルニ巨木全島ニ繁茂シ深緑常ニ鬱蒼タリ、而シテ又頗ル漁獵ノ利ヲ見ル、就中支那人好ム所ノ鮑ノ如キハ其多キコト勝テ言フ可ラス、已ニ浦潮港在留ノ魯人仏人等其益アルヲ認メ竊カニ之ニ注目セリト又其説ク所ヲ聞ケハ鉞山アリト云ヘリ、抑魯西亞ノ亜細亜東方ニ志シアルハ世人ノ已ニ明知スル所ナレハ、浦潮港ノ日ヲ追テ繁盛ニ至ルハ指ヲ屈シテ待ツヘキナリ、果シテ然ラハ該島ハ我長崎ト清国上海ヨリ浦潮港ニ航海ノ線路ニ当リ要衝ノ地ナルヲ以テ、彼我船舶ノ渡海スル者或ハ風浪ヲ避ケ薪水ヲ求ムル亦必ニ尠ナカラサルヘシ、況ヤ

其良材ヲ伐リ其漁獵ヲ開カハ本邦多
少ノ利益ヲ増シ通商ノ便ヲ占ムルニ足ルヘシ、
蓋シ方今国事多端ノ際ナレハ固ヨリ事ヲ
ナスニ後先ノ別アレトモ該島ノ事モ亦忽カセ
ニス可ラサルノ事情アリ、若シ之ヲ度外ニ付セ
ハ外人ノ所有ニ帰シ遂ニ悔トモ追フ可ラス、故
ニ暫ク十全ノ事ヲ為サ、ルモ先ツ速カニ我版
図内ナルヲ証シ、一ノ公廨ヲ設ケ漸次ニ開島
移民ノ手ヲ下シ通船ノ便ヲ得セシメハ外人ノ
垂涎ヲ防キ我レノ所属タルヲ明示スヘシ、而シテ
其管轄ヲ本県ニ命セラレハ便宜ノ渡船ヲ僦ヒ
該島ニ来往シテ輕易ニ其方法ヲ可相立、右ハ
浦潮港在留理事官瀨脇寿人ヨリ頗ル
切迫ノ次第申越ノ旨モ有之、依テ先着手概
略順序書相添此段具陳候條至急何
分ノ御決裁ヲ仰キ候也

明治十年七月十三日 長崎県令北島秀朝
内務卿大久保利通殿

翻刻に読点（・）を適宜加えた。
漢字は原則として常用漢字を用いた。
略字は片仮名にした。